（公財）大阪市博物館協会
指定管理期間（平成22年度～25年度）の総括

◇ 協会の設立・沿革、成果と課題等 P.1～2
◇ 各館所の総括 P.3～8
◇ 「博物館協会の使命」及び「基本方針」 P.9～10
◇ 経営分析 P.11
◇ 入館者数の推移 P.12
◇ 入館者一人当たり公費負担額の推移 P.13
◇ 調査研究の実績 P.14
◇ 「博物館の連携」による総合力の発揮 P.15～23

（公財）大阪市博物館協会　指定管理期間（平成22～25年度）の総括

大阪市博物館協会は、発足した平成22年4月1日から大阪市の博物館施設５館を指定管理者制度のもと管理代行してきたが、平成26年3月31日をもって4年間の指定管理期間が終了した。この間、平成24年4月1日には大阪府より公益財団法人の認定を受けるなどその組織基盤を固めつつ、指定管理者として受託した博物館施設５館だけでなく大阪市文化財研究所も含めた一体的な経営・管理運営に努めてきた。

また、これまでの長年に亘る博物館活動を通じて蓄積された各館の実績・伝統を継承した新たな魅力の創出や、国内外への歴史と文化を通じた都市大阪の魅力の発信を行い、「大阪市博物館群」の集積効果の発揮に寄与してきた。

以下、協会本部における本指定管理期間4年間の総括を行う。

（協会の設立と沿革）

昭和54年　財団法人大阪市文化財協会設立
　　難波宮跡顕彰会、長原遺跡調査会、高速大阪東大阪線難波宮跡調査会の3団体を統合。
昭和57年　財団法人大阪市美術振興協会設立
平成13年　大阪市文化財協会が大阪歴史博物館の管理運営を受託。
平成18年　大阪市文化財協会が大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館を管理代行（指定管理者制度）
平成22年　大阪市文化財協会が大阪市美術振興協会と統合し、名称を財団法人大阪市博物館協会と改称
　　大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪城天守閣を管理代行（指定管理者制度）
平成24年 ４月１日　公益認定を受け、公益財団法人大阪市博物館協会に名称変更

【　指定管理期間における協会の基本方針　】
①各館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力を創出します。
②都市大阪にふさわしい、さまざまな来館者に応えられる博物館をめざします。
③相互の連携によって総合力を発揮し、都市大阪の魅力の発信拠点をめざします。
④点検・評価を行い、ニーズに則した事業の実施と効率的な運営をめざします。

（成果と課題）

１．成果

・博物館協会、各施設の掲げた使命の実現とめざした取組み、定めた目標と事業を着実に達成
・全国的に見て高い水準で実施される研究や、成果の発表である事業の実施
・財団法人から公益法人への円滑な移行
・博物館協会が公益性のある事業を実施するための基盤整備
・大学連携やキャンパスメンバー制度の実施、各館連携による「日欧のサムライたち展」、「大坂を襲った地震と津波展」や「再発見！大阪の至宝展」などの連携事業実施
・外部の有識者による評価委員会を開催し、結果を協会ホームページに公表

２. 課題

（１）経営について

・大阪市予算のマイナスシーリングに伴う指定管理代行料の減額への対応
・老朽化した博物館施設を維持するために増大する施設補修、維持管理経費への対応
・協会事業を支える経営資源（人材・収蔵品）の安定的確保
・長年の歴史によって培われた資料の収集と保存、研究成果、展覧会実績の継承と発展
・事業収益の展示環境等への有効活用

（２）４年の指定管理期間について

・中長期の経営目標、計画の策定が困難
・魅力のある大型特別展示等の誘致のための準備期間が短い
・レストラン、売店などのサービス施設への投資が困難

（３）点検評価等について

・経営目標においては入館者数等の数値が評価指標となっているが、博物館の使命に照らしての別の評価軸も必要
・各種成果の積極的公開
　論文等の研究成果や収集資料等のホームページ等への積極的な公開
・外部資金の確保
　国の「科学研究費補助金」のほか、民間も含めた各種公募資金等の獲得努力
・老朽化した施設設備の点検
　建物・設備及び、コンピュータシステムや大型展示設備等の更新整備の検討

～理事会･評議員会･外部評価委員会意見より～

３. 今後の取組み方針

・協会「経営目標」の再検討
　外部評価結果を受けて、各課題に対する取組みを検討し、「経営目標」を再検討
・点検評価の継続と成果の公表
　「使命」に基づく事業を実施するとともに、『博物館の設置及び運営上の望ましい基準（平成23年基準）』に基づき点検評価を継続し、研究成果等を積極的に公開
・経営資源（財源）の有効活用
　事業費、施設管理費の効率的執行をさらに進めるとともに、魅力ある展示事業の実施や広報活動の充実などを行い、大阪の歴史と文化の魅力を積極的に発信

４. 大阪文化財研究所

（１）長年の文化財調査に基づく知識と技術を活用し、文化財の幅広く総合的な調査研究を行って、その成果を広く発信することについて

1979年以来、大阪文化財研究所では市内の発掘調査を続け、難波宮や大坂城など全国有数の遺跡を含め、この4年間で650件、85,600㎡を調査した。調査成果は現地説明会13回（22,300人）や市民向け講座・講演会など75回（9,300人）、定期刊行物『葦火』24号（累計162号）、Webサイト222,534件（累計588,704件）など多様な方法で公開した。また、科学研究費助成事業（基盤研究A）による上町台地の古地理復元研究は、遺跡の予測的調査につながる成果をもたらした。

（２）文化財に係る資料と人材、国内外の調査研究機関との交流を、文化財事業や博物館・美術館に活かしたことについて

市内発掘調査の出土品のほか図面や写真を管理し、報告書に掲載した重要資料の多くをデジタル化した。また、全国の調査機関と発掘調査報告書を交換し、文化財・考古学関連図書を収集して10,860冊（累計88,500冊）を増加した。これらの資料と考古学・地質学・歴史学・建築学・保存科学の研究者を有し、大阪歴史博物館の日常的な学芸活動や毎年開催している年間調査速報展をはじめとする常設・特別展、地下保存遺構の管理などに資した。また、市内各地の公共施設や学校、民間施設での出土遺物展示「街角ミュージアム」（約30箇所、2,000点前後常設）や、全国の博物館や出版社などの依頼に応じた資料提供（260件）を行った。

そのほか、韓国の文化財調査機関との協定に基づいた交換研修や欧州（イギリス・ノルウェー）研究者を招聘した講演会などでさまざまな情報を得て文化財事業に供した。

（３）学校や地域等との様々な連携を促進し、学校教育や生涯学習を支援することについて

大阪歴史博物館と共催で、市内小学校児童を対象とした史跡難波宮跡の体験発掘（30校、2,001人）を開催し、大阪の歴史と考古学を体感する機会を提供したほか、少人数であるが学校教諭の研修や中学生の職場体験も行った。

また、公的施設などが主催する連続講座の企画と講師派遣、中央区や平野区で開催された地域イベントへの考古学ワークショップの出店・講師派遣（115人、13,000人以上参加）など生涯学習にも貢献した。特に、2011年度から3年間にわたって文化庁の補助金を得た「なにわの宮リレーウォーク」では計15回、3,100人以上が参加した。当研究所と市内各地域のボランティアガイド団体が企画し、当日ガイドや後日刊行した冊子『上町台地の歴史散歩』の制作にも積極的に参加した連携成果の大きい事業となった。

（４）幅広い経営基盤を開拓し、経営の安定に努めたことについて

2012年度から保存科学室を拡充し、保存科学の研究を推進しつつ全国の自治体や研究機関の保存処理事業を積極的に受託した（97件、1億100万円／4年間）。特に木製品の保存処理研究は大きく進展し、国内外の期待も増している。

5. 大阪歴史博物館

（1）各館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力の創出について

・館蔵資料の活用や大阪文化財研究所との連携により、話題性のあるテーマや最新の発掘成果にもとづく展示更新など、常設展示の充実により観覧者が4年間で約53%増を果たした。

・自然史博物館・大阪城天守閣・大阪文化財研究所などとの連携による「淀川展」や「日欧のサムライたち展」、「大阪を襲った地震と津波展」のほか、アニメ・マンガなどサブカルチャーを扱った話題性の高い魅力に富んだ特別展、「エヴァンゲリヲンと日本刀展」、「手塚治虫×石ノ森章太郎マンガのちから展」を試み、20代から30代の女性や外国人など、新たな観覧者層の開拓に成功した。

（2）さまざまな来館者に応えられるとともに、繰り返し訪れたくなる魅力的な博物館をめざしていくことについて

・常設展示の解説の一部に四カ国語表記を試みるとともに、HPや特別展予定表の英訳版を作成するなど、増加傾向にある外国人来館者へのサビース向上に取り組んだ。

・常設展示でのハンズオン（体験展示）に季節限定の新メニュー（貝合わせ）を加え、特別展では鎧甲の着装体験や刀匠の実演会を開催するなど、子どもから大人まで多様な来館者が楽しめる博物館ならではの事業・イベントを実施し、博物館の魅力を創出した。

・学習情報センター「なにわ歴史塾」において、開催中の特別展や話題性のあるテーマ設定で特設図書コーナーを設け、さまざまな来館者の学習を支援した。

（3）学校や地域等との様々な連携を促進し、学校教育や生涯学習を支援することについて

・毎年、大阪文化財研究所と連携し、大阪市内の小学校高学年の学級を対象に体験発掘事業を実施し、サイト・ミュージアムとしての立場から学校教育を支援した。

・地元のNPO法人やボランティアグループとの連携により、「うえまちコンサート」「難波宮フェスタ」「手作りおもちゃで遊ぼう」「綿くり・糸つむぎ」「凧づくり」など、市民向け・子ども向け事業を共同で企画・実施し、市民の生涯学習や子どもの遊びを通した学習を支援した。

（4）点検・評価を行い、市民ニーズに則した事業の実施と効率的な運営について

・10周年記念事業（平成23年度秋）のなかで、常設展示室での現代アートの展示、展示トークを聞いてまわる音声ガイド「聞き耳プロジェクト」の実施、職員による館蔵品を活用したオリジナルグッズ開発と臨時ショップ「れきはく市場」の開催など、これまでにない実験的な事業を試み、幅広く市民ニーズの把握をおこない、オリジナルグッズの開発は、その後の特別展事業に継承し、好評を得ている。

・毎年ゴールデンウィーク期間中において臨時開館を行い、市民サービスの向上に努めた。

６. 大阪市立自然史博物館

（１）各館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力の創出について

・寄贈を基本とした収蔵標本数の増加、科研費の採択数の増加、多数の特別展の開催、友の会・サークルなどのサポーターの育成、東日本大震災被災標本レスキューの主導、長居植物園との連携強化など、これまでの活動の蓄積の上に新たな成果を付け加えることができた。

・本館及び管理棟の施設・設備の老朽化への適切な対応や、常設展示における新たな魅力創出が課題となっている。

（２）さまざまな来館者に応えられるとともに、繰り返し訪れたくなる魅力的な博物館をめざしていくことについて

・子どもワークショップ、ジオラボ、植物園案内など、さまざまな年齢層の来館者が気軽に参加できるイベントを開催し、常設展示にプラスアルファの機会を提供している。

・学芸員による論文発表をプレスリリースし、マスコミに紹介するとともに常設展示をリンクさせるという新たな広報手法を開発した。

・自主企画の特別展開催とともに、恐竜展など話題性が高い特別展の誘致を実現するとともに、常設展入館者増への波及効果を生み出し、一定の成果を挙げることができた。

（３）学校教育や地域等とのさまざまな連携を促進し、学校教育や生涯学習を支援することについて

・学校の団体利用においては事前のガイダンスを行い、引率教員に注意事項の説明だけでなく学芸員によるレクチャー、事前学習用資料の貸し出し、教員向けの研修などのサービスの説明や閑散期の利用勧奨など、より効果的な利用の促進に努めている。

・教員研修については大阪市教育センター・大阪府教育センターと連携して実施している。また平成24年度より8月には国立科学博物館などと提携して「教員のための博物館の日」を開催し、多数の教員・教育関係者の参加を得ている。

・毎年秋には大阪自然史フェスティバル（またはバードフェスティバル）をNPO法人大阪自然史センターと共催している。毎回80前後の地域の自然関連団体が参加し、活動を発表し交流するとともに、会期中は多くの市民が来館し地域の自然愛好家・団体の交流イベントとして定着しつつある。

（４）点検・評価を行い、市民ニーズに即した事業の実施と効率的な運営について

・監査指摘を受け、自然史博物館の科学研究費取扱規程を再整備し、特に研究補助者の雇用、謝金の支出などを中心に、より厳格な執行体制を整えた。

・特別展「淀川生き物図鑑」に対する外部評価（平成22年度）を受け、その後も自主企画特別展終了後には、学芸員、広報担当職員、警備や案内スタッフ、ワークショップスタッフなど多様な関係者が参加する内部評価を定例化し、PDCAサイクルを確立した。その結果、ポスター・タイトルの工夫や展示手法の改善などが意識的になされるようになり、多くの来館者を迎えかつ満足度を高めることに結びついている。

・管理エリアのセキュリティを確保するため、外来研究員や研究サークル等の受け入れの際の施設利用などに関するルール整備を進めた。

・ゴールデンウィーク期間中やお盆時期において臨時開館を行い、市民サービスの向上に努めた。

7. 大阪市立美術館

（1）各館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力の創出について

日本の古美術・中国美術の優れた収蔵品と長年にわたる調査研究の実績に基づき、コレクション展（常設展）や特別展、「歌川国芳」（平成23年度）、「契丹」・「紅型」・「北斎」（平成24年度）、「ボストン美術館展 日本美術の至宝」・「北魏 石造仏教彫刻の展開」（平成25年度）などを開催した。

地元との協力関係を構築し、大阪という地域性に注目して企画した「鴻池コレクション扇絵名品展」・「住吉さん」（平成22年度）、「再発見! 大阪の至宝 ―コレクターたちが愛したたからもの―」を開催した。また、「岸田劉生展」など近代美術に関する展覧会も自主企画展として開催した。

（2）さまざまな来館者に応えられるとともに、繰り返し訪れたくなる魅力的な博物館をめざしていくことについて

大阪市立美術館には約8000件の館蔵品と約5000件の寄託品を収蔵しているが、常設展の展示方法などをわかりやすく改良しながら、コレクション展として実施した。コレクション展の中で1フロアー規模で開催する特集展示や、館蔵品･寄託品を中心にしながら一括で他所から拝借して開催する特別陳列などを積極的に開催し、大阪市立美術館のもつ作品からの多様な魅力を市民に発信した。また、従来とは異なる客層に対して、音楽イベントやワークショップなどの教育･普及事業にも取り組み、さまざまな来館者にお越しいただいた。

（3）学校や地域等との様々な連携を促進し、学校教育や生涯学習を支援することについて

小中学校の観賞授業や生徒を対象とした絵画教室の実施など学校教育の支援を行った。また、社会貢献事業として民間企業と連携した障がい者向けの特別鑑賞会や地域と連携したコンサートなどの開催を行った。

①小中学生の観賞授業（教育美術研究会全国大会他）を実施
②小中学生を対象とした絵画教室「美術館へ行こう」を実施
③障がい者特別観賞会を三菱商事と連携し平成23年度から実施
④地域と連携した、なにわの日コンサートやジャズを平成２３年度から実施

（4）点検・評価を行い、市民ニーズに則した事業の実施と効率的な運営について

①各展覧会でアンケートを実施して来館者のニーズを把握し、その結果を踏まえて業務運営の改善を行った。
②警備・設備管理・清掃・看視等の業務を可能な限り統合して業務委託し、効率的な運営を行った。
③毎年ゴールデンウィーク期間中においては臨時開館を実施し、また天王寺公園のイベント時には開館時間の延長を行なうなど市民サービスの向上に努めた。

８・大阪市立東洋陶磁美術館

（１）各館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力の創出について

・優れた収蔵品を核とした長年にわたる調査研究の実績にもとづき、特別展「浅川巧生誕百二十年記念浅川伯教・巧兄弟の心と眼―朝鮮時代の美―」や開館30周年記念企画展「国宝油滴天目茶碗と国宝飛青磁花生－伝世の名品－」、そして「幻の名窯南宋修内司官窯－杭州老虎洞窯址発掘成果展」などの国際交流企画展シリーズなどの独自性と専門性のある内容の展覧会を開催し、東洋陶磁の魅力を継続的に発信するとともに、学術的にも貢献した。

・東洋陶磁との関連性の中で、西洋陶磁、ガラス工芸など他ジャンルの美術品の魅力を紹介する「ルーシー・リー展―ウィーン、ロンドン、都市に生きた陶芸家」、「国立マイセン磁器美術館所蔵　マイセン磁器の300年」、そして「森と湖の国　フィンランド・デザイン」などの特別展を開催し、新たな観客層の獲得に努めた。

・陶磁器専門の美術館として、独自のLED照明や免震式展示台などを導入して鑑賞に最適な展示環境の整備に努めた。

（２）さまざまな来館者に応えられるとともに、繰り返し訪れたくなる魅力的な博物館をめざしていくことについて

・展覧会の内容にあわせてターゲットを設定し、効果的な広報を行った。

・美術ファンにアピールするデザイン性の高い広報印刷物を作製し、展覧会の魅力を発信した。

・多言語対応のHP、専門雑誌、海外の各種メディアなどで国内外に向けた広範囲にわたる情報発信を行った。

・各展覧会でアンケートを実施して来館者の属性分析や満足度調査を行い、館事業の実施に活用した。

・特別展の内容にあわせて、ショップ・喫茶での独自の商品開発・サービス提供を行い、観覧者の満足度アップに貢献した。

（３）学校や地域等との様々な連携を促進し、学校教育や生涯学習を支援することについて

・国内外の大学から、美術・歴史系専攻学生の団体見学を受け入れ、レクチャーや陶磁史・美術史・博物館学などに関する情報提供などを行った。

・成人学級・シニアカレッジなどの生涯学習グループの団体見学を受け入れ、レクチャー・ギャラリーガイドなどを実施した。

・光のルネサンス期間の照明パフォーマンスの実施、中央公会堂・中之島図書館・国際美術館・国際会議場などとの連携などにより、中之島地域の活性化に協力した。

（４）点検・評価を行い、市民ニーズに則した事業の実施と効率的な運営について

・各展覧会でアンケートを実施して来館者のニーズを把握して随時対応し、快適な鑑賞環境の維持に努めた。

・警備・設備管理・清掃・看視等の業務を可能な限り統合して業務委託し、効率的な運営を行った。

・毎年ゴールデンウィーク期間中は臨時開館を実施するとともに、光のルネサンス開催期間中においては、臨時開館及び開館時間の延長やライトアップ、オープンカフェを実施し、市民のサービスの向上に努めた。

９. 大阪城天守閣

（１）各館の実績・伝統を継承し、新たな魅力を創出することについて

・創意をこらした常設展の2ヶ月ごとの更新、自主企画による意欲的な内容の特別展・テーマ展実施
・豊臣時代、大阪城、武器及び武具、郷土史にかかわる資料の収集、保存管理と公開
・展覧会図録や絵葉書の作成頒布、公共機関、研究者、出版・放送関係機関などに対する収蔵品写真の提供、収蔵品写真を利用した商品化への協力、他の博物館施設などへの文化財貸出による収蔵品の積極的な活用と普及
・兜・陣羽織の試着体験の常時実施による、来館者への体験機会の提供
・姉妹城、友好城郭、全国城郭管理者協議会加盟城郭などとの交流事業を通じた、施設の魅力発信や新たな魅力の創出
・周年事業（天守閣復興80周年、史跡・重要文化財指定60周年、大坂の陣400年）の実施による、大阪城の価値を再発見する機会の継続的な創出
・博物館実習、職場体験、写生画展の実施、学校への講師派遣などによる教育現場への貢献

（２）さまざまな来館者に応えられる博物館、繰り返し訪れたくなる魅力的な博物館をめざすことについて

・館の特色を生かした文化集客イベントの館内外における開催
・大阪城公園内や周辺にて開催されるイベントとの連携による新たな来館者の発掘
・ポスター・チラシ、ホームページの充実、メディアへの働きかけによる情報発信
・展示解説の英訳化、日・英・中（繁体・簡体）・韓の各言語リーフレットならびに子供用リーフレットの配布、音声ガイド（日・英・中・韓）の無料貸出などによる、多様な来館者へのサービス充実
・ホテル、旅行エージェント、交通機関各社などへの積極的なプロモーション活動

（３）大阪城にまつわる歴史を解明し、調査研究の成果発表に努めることについて

・豊臣時代資料・史跡調査、徳川時代大坂城関係資料調査の継続的実施
・大阪城天守閣紀要・徳川時代大坂城関係史料集の刊行による調査研究成果の公表
・市民・研究者・マスコミなどからの照会回答、収蔵品の特別閲覧対応
・講演会・シンポジウム・フォーラムなどへの講師派遣を通じた学術研究成果の普及
・新聞社・放送局・公共団体・市民団体などの文化関連事業への助言・情報提供や企画協力
・大阪城内の櫓などの一般公開、史跡案内依頼に対する講師派遣、発掘調査への助言、遺跡公開事業への参画などを通じた大阪城の史跡としての価値普及への貢献
・他の博物館施設などからの要請に応じた学術情報の提供、展示企画への参加や指導

（４）点検・評価を行い、市民ニーズに則した事業の実施と効率的な運営を行うことについて

・入場者動向調査の継続的実施による来館者のニーズ把握、その結果や外部評価の結果を踏まえた管理運営業務の改善
・売店における、来館者ニーズに応じた売れ筋商品の配置や、業者による商品開発への協力
・改札・案内・警備・清掃・設備・昇降機の運転業務などの外部委託による運営の効率化
・定期的な設備の保守点検実施、照明のLED化など、安全で快適な施設の維持管理や改善
・市民サービスの向上をめざし毎年ゴールデンウィーク期間中や夏休み・春休み時期及び秋の観光シーズンにおいて開館時間延長を実施
・より一層の市民サービスの向上に向け平成25年度は元旦の臨時開館を実施

博物館協会の使命

１.大阪文化財研究所を設け、文化財とそれに関する資料の調査研究、保存と活用を行うこと

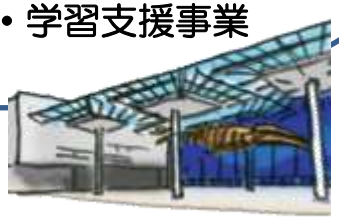
２.歴史及び考古に関する資料の収集・保存・活用、調査研究、展示、普及教育・学習支援事業

使　命

文化財の調査研究と保存、
大阪市の博物館・美術館の運営、及びそれらの相互連携、成果の公開・活用を通じて、広く学術・教育の向上と発展に寄与することを目的とする

３.美術及び東洋陶磁に関する資料の収集・保存・活用、調査研究、展示、普及教育・学習支援事業

４.自然科学に関する資料の収集・保存・活用、調査研究、展示、普及教育・学習支援事業



基本方針

1．各館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力を創出します。

①館が蓄積してきた膨大な収蔵品などの資料や情報、事業ノウハウなどを継承する

②50名を超える学芸員の知識・経験・専門能力、および設備・機器を共有・活用し、各館のレベルアップ、機能強化を図る

2．都市大阪にふさわしい、さまざまな来館者に応えられる博物館をめざします。

①さまざまな人びとが往来する都市にふさわしく、市民はもとより国内外からの来阪者にとっても満足できる施設をめざす

②子供、高齢者、障がい者、乳幼児の保護者、外国人等が安心して利用できる施設をめざす

3．相互の連携によって総合力を発揮し、都市大阪の魅力の発信拠点をめざします。

①個性豊かな専門館が日常的に連携することで、単独館ではできない総合的・学際的な事業展開とサービス向上を実現する

②蓄積してきたI国内外の広域ネットワークや学術連携、協働でのプロモーションの力を活かし、都市大阪の魅力を国内外に発信する、文化的拠点の確立をめざす

4．点検・評価を行い、ニーズに則した事業の実施と効率的な運営を目めざします。

①館が実施する事業を、館の内外双方から点検・評価し、充実を図る

②来館者の声や市民のニーズを、迅速かつ的確に事業に反映できる運営をめざす

③館を取り巻く厳しい社会・経済状況、限られた運営費のもと、効率的・効果的な経営を追求する

経　営　分　析

1）収支状況の推移【平成22年度～平成25年度】

- 市からの管理受託収益は22年度から比して92,511千円の減となっているが、観覧料収入の増収、経費の節減等につとめている。
- 人件費は減、大阪市への納付金については平成22年度に比して約3.5倍の増（43,002千円→149,843千円）、何れの年度でも、剰余金を出しており、その剰余金については、公益法人化（平成23年度）の際に使途を定めた積立資金への積立をしている。

2）平成25年度　博物館施設収支

- 市からの指定管理料（管理受託収益）が削減される中、観覧料収入の増収、経費の節減等につとめている。

3）公費依存度（博物館施設比較）

- 博物館施設の運営にかかる公費依存の割合については、国独立行政法人・他の自治体の財団に比べ低い。

4）入館者一人当たり公費負担額の推移（自己収益率）

- １人当たりのコストを１０％以上削減
- 歴史博物館と市立美術館では約40％削減

5）入館者数の推移

- 入館者数は約５０万人増で３００万人を突破

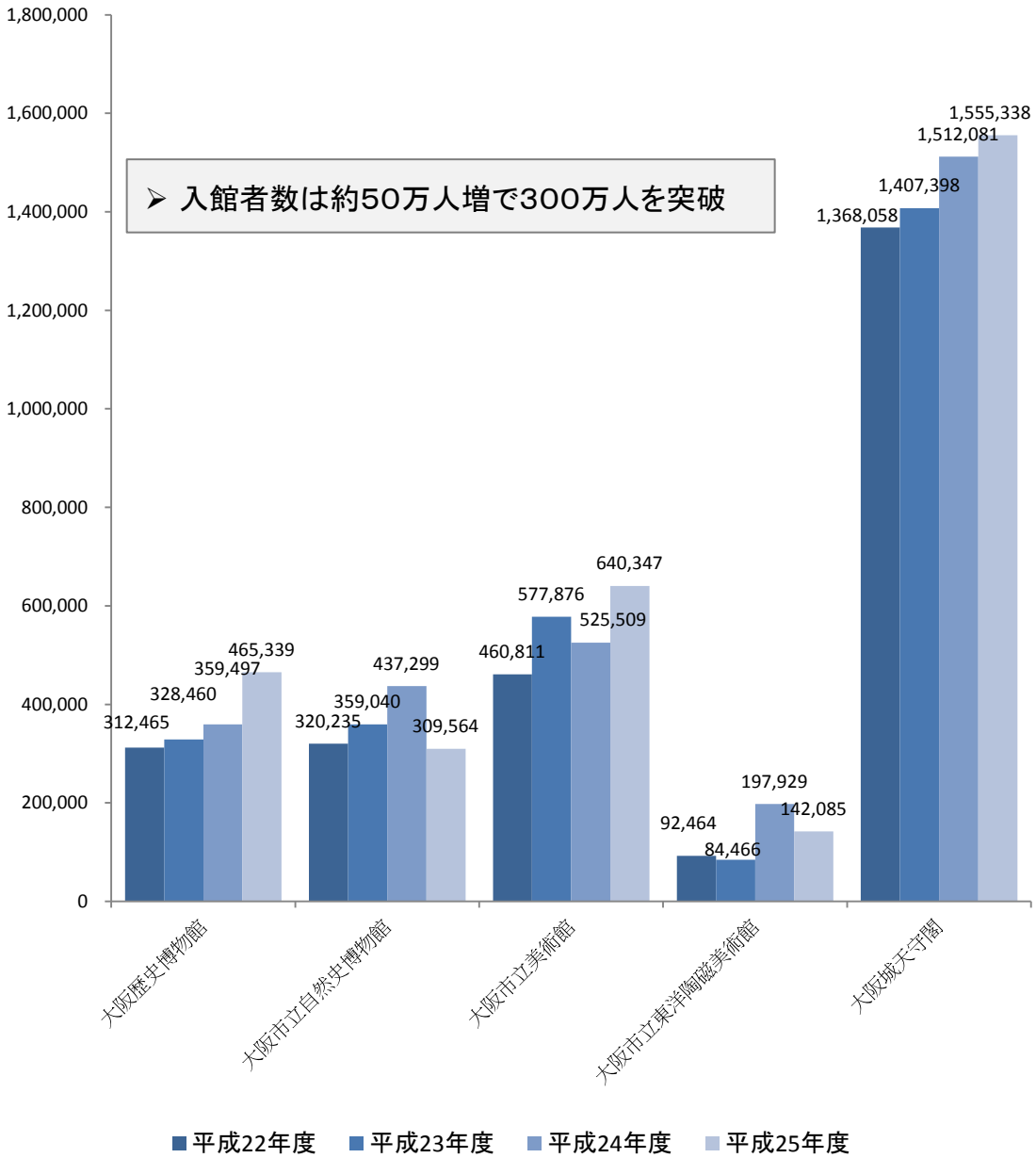
6）アウトソーシング（指定管理業務の民間委託状況）

- 各施設で、受付案内、清掃、警備、設備保守等の多くの業務を外部委託し効率化を図る
- 委託業者の選定は、市に準じて入札が基本
- 市が行う複数年契約を取り入れ、安定した施設運営と経費節減を実現

7）剰余金の取扱い

- 事業費支出の縮減・展覧会収入の増等により、市指定管理委託料からの余剰が発生する、その余剰は当協会が平成23年度の公益法人化の際に定めた特定費用準備資金に積立をし、公益目的事業として実施することとしている。

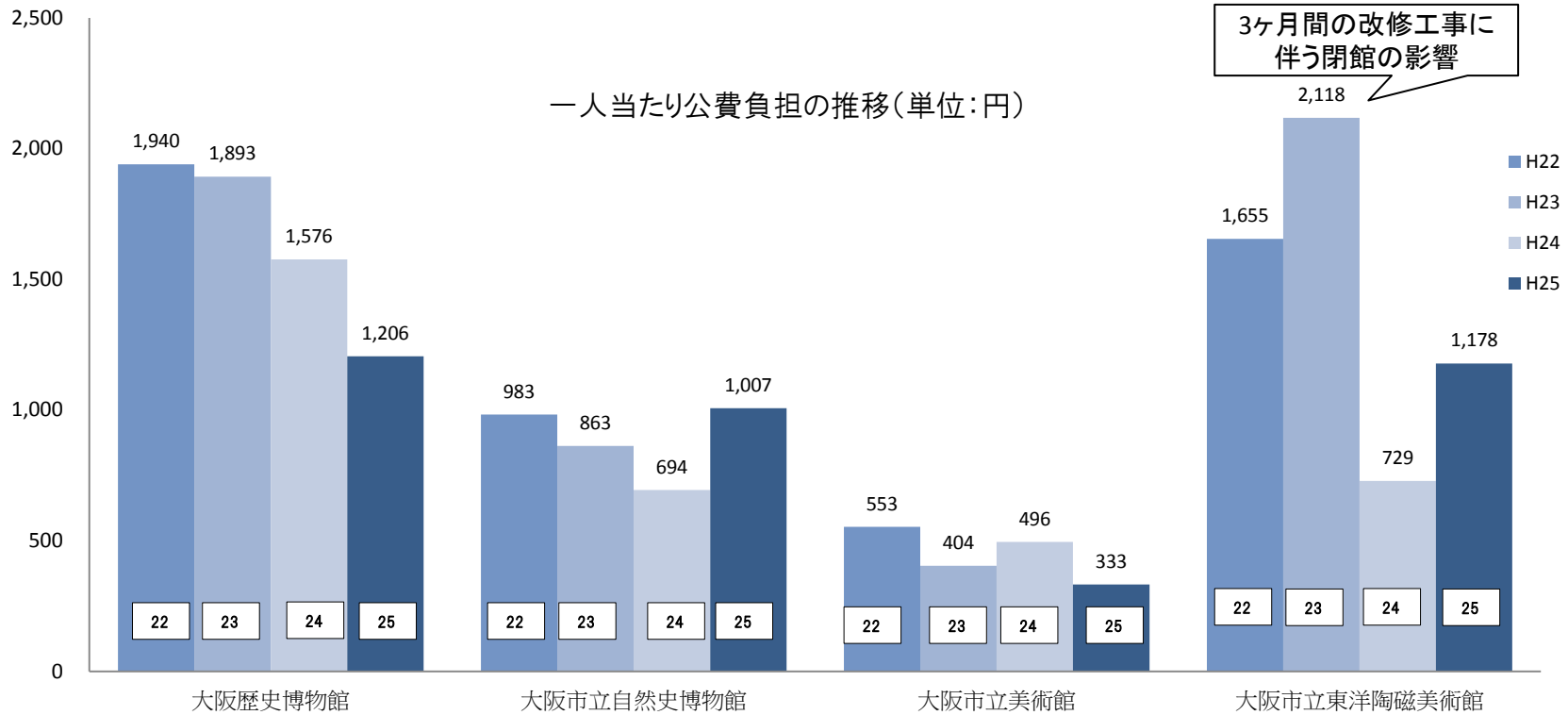
入館者数の推移


1,800,000
1,600,000
1,400,000
1,200,000
1,000,000
800,000
600,000
400,000
200,000
0
➢ 入館者数は約50万人増で300万人を突破
312,465
328,460
359,497
465,339
320,235
359,040
437,299
309,564
460,811
577,876
525,509
640,347
92,464
84,466
197,929
142,085
1,368,058
1,407,398
1,512,081
1,555,338
大阪歴史博物館
大阪市立自然史博物館
大阪市立美術館
大阪市立東洋陶磁美術館
大阪城天守閣
平成22年度
平成23年度
平成24年度
平成25年度

3,500,000
3,000,000
2,500,000
2,000,000
1,500,000
1,000,000
500,000
0
大阪城天守閣
大阪市立東洋陶磁美術館
大阪市立美術館
大阪市立自然史博物館
大阪歴史博物館
約20%増
平成22年度
平成23年度
平成24年度
平成25年度

入館者一人当たり公費負担額の推移（自己収益率）

- １人当たりのコストを10％以上削減
- 歴史博物館と市立美術館では約40％削減



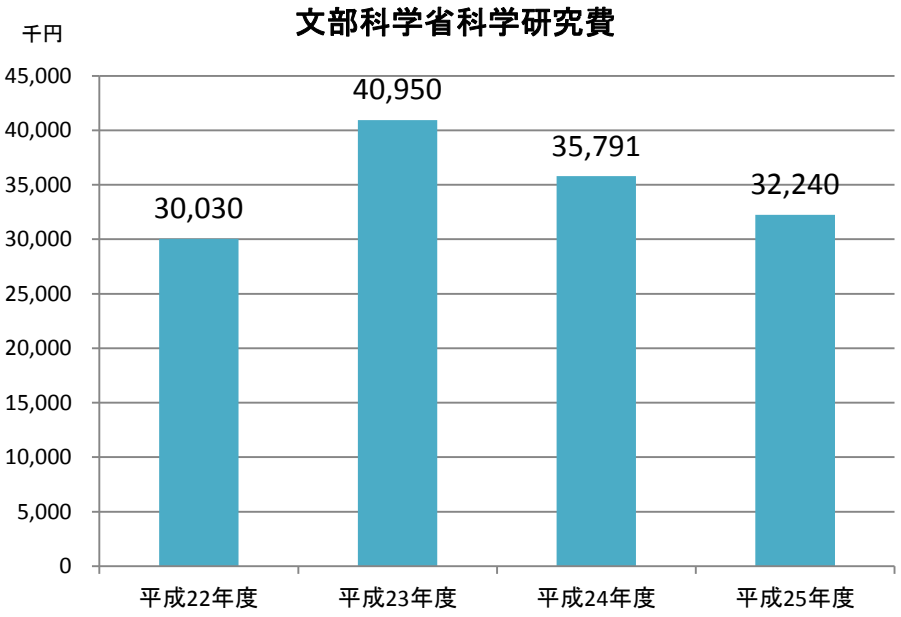
【平成25年度決算】

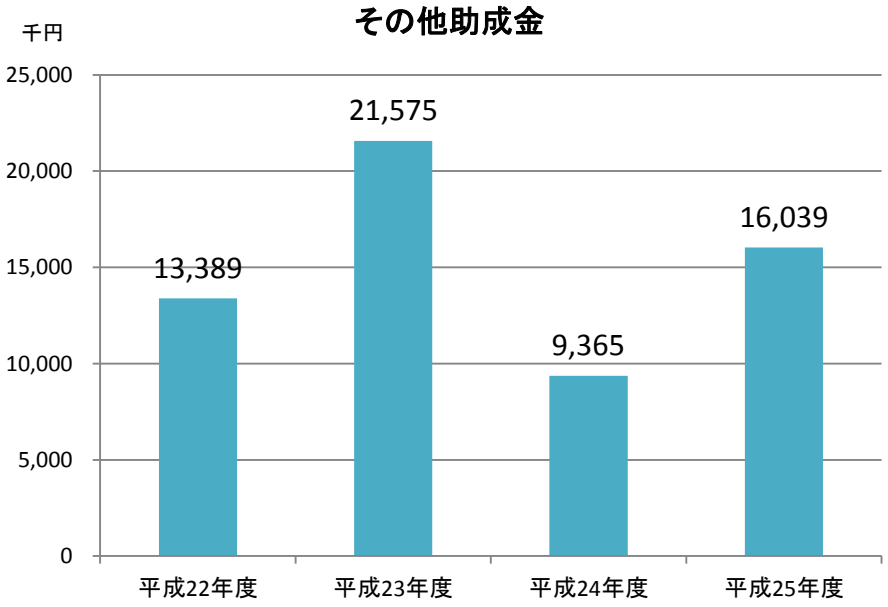
・自己収益率（全収入における運営による収入の割合）　　単位：千円

	歴博	自然史	美	東陶	天守閣	計
全収益	694,943	314,299	541,948	222,112	655,978	2,429,280
運営による収入（入館料等）	153,781	40,024	314,016	55,613	655,978	1,219,412
計	22.1%	12.7%	57.9%	25.0%	100.0%	50.2%

調査研究の実績（外部資金の獲得状況の推移）

- 文部科学省の科学研究費は毎年3,000万円以上、4年間で1億3,900万円を獲得
- 平成25年10月には、大阪市立美術館が科学研究費の研究機関として指定を受けた
- 科学研究費以外にも文化庁支援事業や民間の助成金を獲得し、調査研究の充実を図るとともに、展示事業の充実にも役立てている
- 科研費以外での獲得額は4年間で6,000万円超え





「博物館の連携」による総合力の発揮

１） 連携による主な展覧会
① 「日欧のサムライたち」（H24）
② 「大阪を襲った地震と津波」（H24）
③ 「再発見！大阪の至宝」（H25）

２） 「国際博物館の日」シンポジウム
① 2012「博物館　これからのみせ方・つたえ方」（H24）
② 2013「ミュージアムとコレクション」（H25）

３） ミュージアム連続講座
① 2012　テーマ 「食」（H24）
② 2013　テーマ 「旅」（H25）

４） 教育普及事業

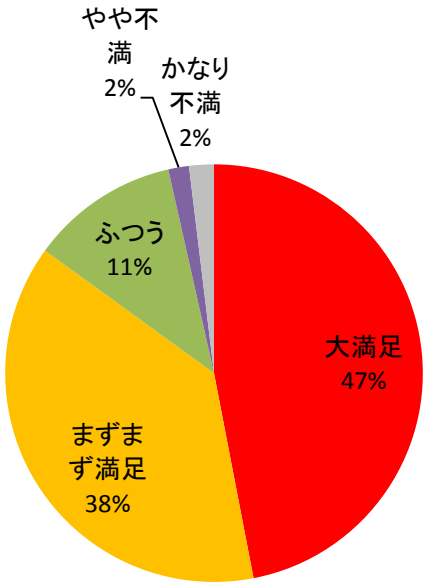
1）連携による展覧会

①大阪城とオーストリア・エッゲンベルグ城の友好城郭提携3周年記念
大阪城天守閣・大阪歴史博物館合同自主企画特別展
「日欧のサムライたち―オーストリアと日本の武器武具展―」
（平成24年3月24日～5月6日）大阪歴史博物館

【歴史博物館】×【大阪城天守閣】
×【シュタイヤーマルク州立博物館ヨアネウム】
東西同時期の武器武具や合戦図屏風などを展示し、
歴史・文化・戦闘方法等を分かりやすく比較展示。

ポスター

＜アンケート＞
・エッゲンベルグの素晴らしいコレクションを見れてうれしい。特に向こうの甲冑類や武具を多く日本の名将のものと見ることができる展示は意外と初めてではないだろうか。
・大変素晴らしい企画および展示でした。またヨーロッパの武器武具展を開催してください。



満足度

展示会場

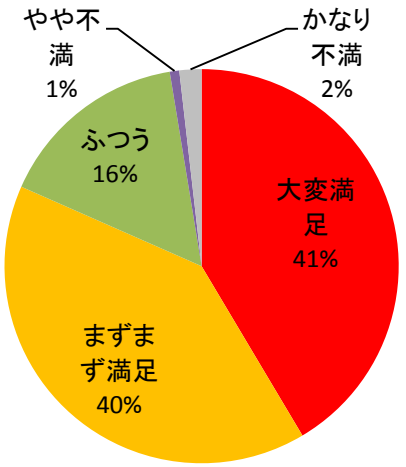
②「大阪を襲った地震と津波」
（平成24年7月25日～8月26日）大阪歴史博物館

【特別協力】朝日放送株式会社
【協力】公立大学法人大阪市立大学／神戸大学大学院
人文学研究科地域連携センター／津波・高潮ステーション／
特定非営利活動法人地盤・地下水環境NET／
特定非営利活動法人まち・すまいづくり

小学生の見学

【歴史博物館】×【文化財研究所】×【自然史博物館】
過去に大阪を襲った地震と津波について、地質学・考古学・歴史学など様々な学問分野による最新の研究成果を交えた総合的な展示を実施。防災意識の向上を願って、大阪市危機管理室・消防局・各区役所、市内小中学校とも連携して広報・案内活動を展開。

＜アンケート＞
- 大阪には、津波がないと思っていたけれど、あるということがわかった。（小3）
- 昔の人はいろいろな苦労を乗り越えてきたからこそ今があると思うようになった。（小5）
- 大阪にも地震や津波が起こっていたことが伝わる資料や展示がたくさんあり、よかった。（教員）
- 大阪市内の断層の存在は、学校での指導に役立つ。（教員）
- 大阪の人に、もっと多くの人に見てもらいたい。（52男）
- 最後に観たビデオが良かった。2回見直しました。（72女）



満足度

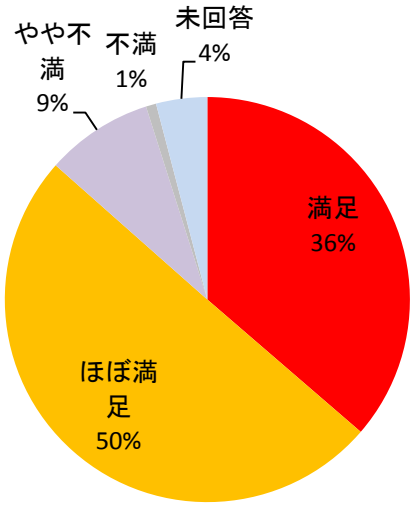
③「再発見！大阪の至宝」
（平成25年10月29日～12月8日）大阪市立美術館

【市立美術館】×【東洋陶磁美術館】×【歴史博物館】
×【大阪城天守閣】×【文化財研究所】×【自然史博物館】

博物館協会5施設の所蔵品・寄託品から、国宝・重要文化財など主要な美術コレクションと、大阪を発祥とする私立美術館の代表的作品を一堂に展覧。個々のコレクションを育んだ大阪という都市と、大都市に欠かせないし施設としてのミュージアムとコレクションの関係を再発見する展覧会。

ポスター

＜アンケート＞
- 満腹の量で高い質。文句なし。後期分もチケット買っています。（36才男）
- 大阪市にこんなにお宝があるとは知りませんでした。昔の財界人は金もうけだけでなく文化にも貢献したのだなと感心しました。（50女）
- 時間的になかなか見られない複数の場所にあるものを、いちどにみられるのはありがたいし、大阪にある宝をいちどに確認できるのはありがたい。（60男）
- 博物館・美術館の連携企画など今後もあったらいいなと思います。（36女）



満足度

≪外部評価≫ （連携による展覧会共通）
連携展示はいずれも時宜を得た力のこもった好企画であった。
今後のさらなる展開に期待する。

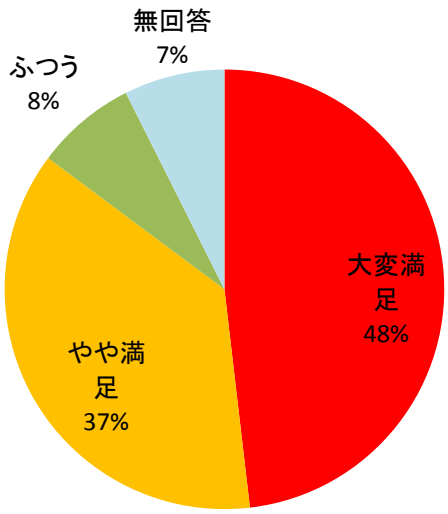
2)「国際博物館の日」シンポジウム

①「国際博物館の日」シンポジウム2012
テーマ「博物館　これからのみせ方・つたえ方」
（平成24年5月28日）
近年の施設改修や新たな事業展開などを紹介し、今後の博物館活動への影響や可能性について考える.

内容：展示用LEDの導入／プラネタリウムのリニューアル／インターネット配信技術を使った普及活動／文化財見学ガイド「なにわまナビガイド」の開発／協会と市立大学との包括連携協定

発表「親密さを保った小規模イベントを大人数で」

＜アンケート＞
・博物館の種々の取組み方が分かった。
・各館各様に影の努力が積み重ねられていることに感心しました。
・内部関係者向けの催しがオープンに参加できてよかった。
　しかし、まだまだ「関係者外」への情報発信は不足しています。
・根本的な「広報戦略」を各館合同で立てて進めて欲しいと思いました。



満足度

≪外部評価≫
「国際博物館の日」の行事として内容のある事業を実施していること、成果を冊子、HPで公開していることを高く評価する。

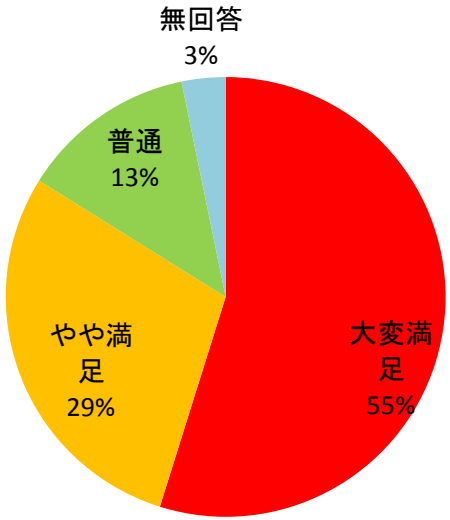
②国際博物館の日記念シンポジウム「ミュージアムとコレクション－未来へ成長するたからもの－」（平成25年5月25日）

大阪市立美術館で開催した特別展「再発見！大阪の至宝－コレクターたちが愛したたからもの－」にちなみ、大阪の地に育まれたコレクションの形成とその時代背景に焦点をあて、ミュージアムとコレクションの関係を紹介し、今日まで果たしてきたミュージアムの役割と未来に向けて成長するコレクションを展望する。

【館長座談会】「未来へ成長するコレクション」

＜アンケート＞

- 大阪市のミュージアムの全体像を把握する機会を持つことが出来た。
- 講演者の方がそろっており、ぜいたくだった。反面、盛り込み過ぎてすべての時間が短かかった。
- ・学芸員はコレクションを守るだけでなく、コレクションを作る役目もあるのだという点が良く認識できた。
- 大阪市の市民の力と各館の努力。
- ミュージアムが連携することで、展覧会などの新たな付加価値が生まれていくことがよく分かりました。今後の活動に期待。



満足度

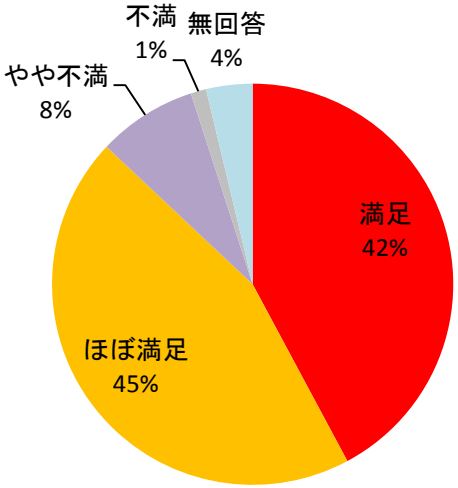
3)ミュージアム連続講座

①ミュージアム連続講座2012
（平成24年9月19日～10月17日、全5回）
テーマ:「食」
内容：ⅰ）モダンライフに見る食とその空間、
ⅱ）米から飯へ、ⅲ）動物とヒトの食材、
ⅳ）やきものと食文化、
ⅴ）日本と世界の食文化

講座「電気炊飯器、今昔」

チラシ

＜アンケート＞
・毎回、“食”に関することですが、視点を変えるとこんなにも様々な方面から学ぶことができ、非常に興味を持って参加することができました。
・この様に楽しい講座は他の人にも進めたいし受けさせてあげたい。
・内容はどれも興味深く、施設へも行ってみたくなりました。資料も役に立つものをいろいろいただけてありがたかったです。
・体験しながら、または実物を見せていただけて参考になった。



満足度

≪外部評価≫
・「ミュージアム連続講座」は、大阪の知を集積するもので、テーマも興味深いものが多い。博物館等が構築した知の集積を多くの人に還元することに成功している。

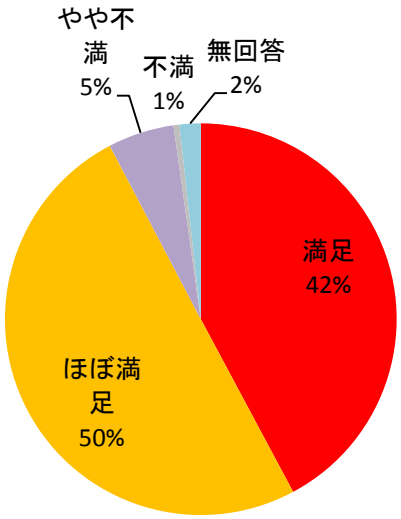
②ミュージアム連続講座2013
（平成26年2月7日～3月7日、全5回）
テーマ:「旅」
内容：ⅰ） めぐる旅
ⅱ） いのちの旅
ⅲ） 湯の旅
ⅳ） 描かれた旅
ⅴ） 物産の旅

講座「高松藩と砂糖の旅」

チラシ

＜アンケート＞

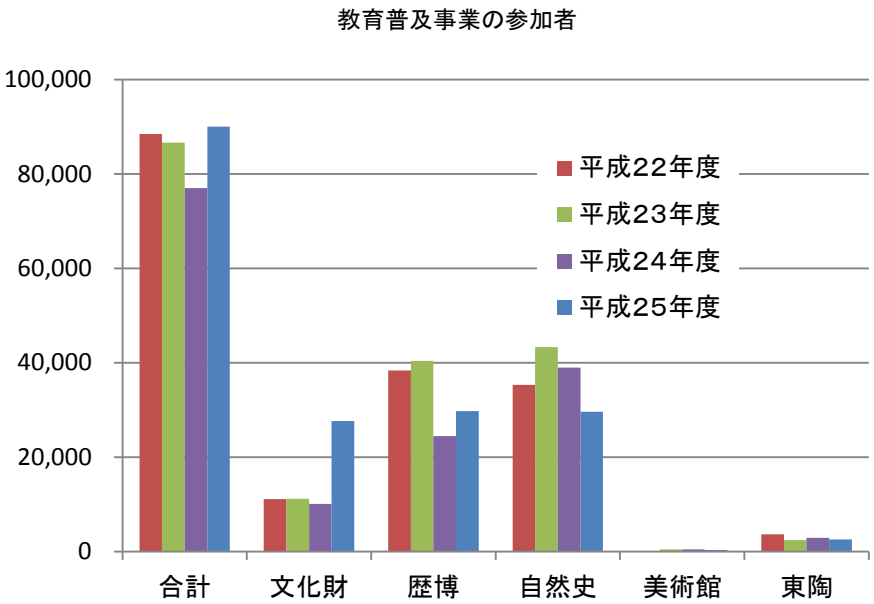
- 知らないことばかりで貴重な時間を過ごさせて頂きました。
- 身近な楽しめる内容でした。
- 非常に判りやすいお話であった。絵の説明が素人に判りやすい説明でした。
- レジュメも説明もよく内容が理解できてよかった。
- 専門的で少し判りにくかった。
- 話題が飛び過ぎて盛り込み過ぎか。
- もう少し時間を与えてほしかった。機会があれば1本の講演に。
- 5回連続はやはり出席しにくいです。できれば事前に数回に分けて抽選してほしいです。
- 同じ曜日ばかりだと来れないので、曜日を振り分けてほしい。



満足度

4）教育普及事業

- 参加者の合計は、毎年7万人を超え、平成25年度においては初めて9万人を超えた
- 博物館・美術館・文化財研究所では、講演会・講座・シンポジウム・ワークショップ・ガイドツアーなど実施
- 文化財研究所は発掘調査現地説明会に多くの市民が参加
- 学芸員を外部講演会等へ派遣（天守閣は年50回以上）



※上記は天守閣の館外イベント等は未集計

【各施設の主な教育普及事業】

文化財	発掘調査現地説明会、金曜歴史講座、大阪の歴史を掘る講演会
歴博	なにわ歴博講座、シンポジウム、大阪町あるき
自然史	市民参加型調査、自然史フェスティバル、自然観察会
美術館	特別記念講演会、美術講座
東陶	講演会、講座、シンポジウム
天守閣	講演会・フォーラム等へ学芸員派遣、春・夏のフェスティバル

大坂城跡豊臣期石垣調査
現地説明会

大阪歴史博物館
アニメソングコンサートin れきはく